

## 教育委員会からのお知らせ

### 11月は「児童虐待防止推進月間」です

～『守るのは気づいたあなたのその勇気』（全国公募による標語）～

#### 虐待とは…

虐待は、家庭内で大人から子どもへの不適切な「力の行使」です。

しつけと虐待の線引きは難しいといわれますが、大人の言い分がどのようであっても、あくまでも子どもの側に立った判断で「子どもにとって有害かどうか」です。

#### 虐待の種類

- ①身体的虐待…殴る、蹴る、熱湯をかける、溺れさせる、縄などで拘束する、冬戸外に閉め出すなど、身体に暴行を加えたり、子どもを死に至らしめるような行為。
- ②性的虐待…子どもに性的な行為やいたずらをする、性的暴力、性的行為の強要等をいい、裸の写真やビデオを見せることも含まれる。
- ③ネグレクト…衣服や食事の世話をしない、病気になっても病院へ連れて行かない、乳幼児を残して頻りに外出する、乳幼児を車に放置するなどの、養育や保護の怠慢・拒否。
- ④心理的虐待…大声で怒鳴る、他のきょうだいと著しく差別的な扱いをする、「産まなければよかった」などと言う、無視するなど、言葉や態度で子どもの心に深い傷を負わせること



#### 虐待かもしれないと思ったら

#### 迷わず下記連絡先に相談してください!!

連絡いただいた方の秘密は守られます。

確かな証拠がなく、間違っているかもしれない、といった状態でも結構です。ご連絡ください。

#### 虐待の連絡は、子どもを守り、ひいてはその親や家族を守ることになります!

#### ★★★ 連絡先 ★★★

- |                        |                  |               |
|------------------------|------------------|---------------|
| 下諏訪町 児童家庭・教育相談ホットライン   | (平日8:30~17:15)   | 27-3204 (直通)  |
| 下諏訪町教育委員会 教育こども課子育て支援係 | (平日8:30~17:15)   | 27-1111 内線715 |
| 諏訪児童相談所                | (平日8:30~17:15)   | 52-0056       |
| 児童虐待・DV 24時間ホットライン     | (休日夜間を問わず24時間対応) | 0263-91-2410  |

#### 町民大学 一下諏訪を学ぶ⑥—

演題：「和宮降嫁と幕末」

講師：諏訪湖博物館・赤彦記念館 館長 宮坂 徹

日時：12月4日(土) 午後1時30分～午後3時 会場：文化センター集会室

今年是和宮降嫁から150年となる年です。明治維新という大きな時代の変革のなかで、時の流れに翻弄されながらも確固たる生き方をした和宮と、その時代がどのように移り変わっていったのかをお話したいと思います。(講師コメント)

## 新天地を下諏訪に求めて

「温かい「御田町」がすき」

御田町 山本 純瑚 (じゅんご)



初めて下諏訪を訪れて

昨年三月末で夫が仕事を退職し、永年の夢だった木工作家としてスタートするため作家活動

「初めて下諏訪に足を運んでからもう一年経つんだねえ…」ついで先日、夫とそんな話をしながらここ一年間のことを懐かしく思い出していました。ちょうど私たちが下諏訪を初めて訪れたのは今年の五月。秋宮様の緑が青々と息づき始めた頃でした。

に適した土地を探し求めて、私たち夫婦は全国を旅してました。北海道、長野、山梨、兵庫など木工作家がたくさんいる土地を巡る旅でした。数年前より懇意にしていた原村在住の夫の恩師に、「木工作家として独立したいが、長野でいい土地はないか」と相談を持ちかけたところ「街中で工房をやっている人たちもいる」と教えていただき、下諏訪の御田町に連れて来てもらったのです。御田町の工房やお店を訪れて開業までの話やこの近所の様子などを聞いた時、おかみさんや匠プロジェクトの方々と会って、自分達のやりたいことについて話を聞いてもらったりしました。初めての私たちを笑顔で

快く受け入れ、心を開いていろいろな話を聞かせていただきました。あいにくその時は空いている物件がなく町の様子を見るだけでしたが、「とても温かい町だから、ここでやることになっても大丈夫だね」と夫と話しながら帰りました。その後いろいろな土地を巡る旅をしていましたが、なかなかピンとくる土地にめぐり合えず、半ば諦めて、夫の実家のある三宅島でスタートしようかと思っていた矢先、御田町の匠プロジェクトの方から連絡をいただきました。そしてここ御田町で活動をスタートさせる運びとなりました。全く知り合いもない土地で新しい仕事のスタート。しかし引越しも御田町へ行くことに不思議と不安はありませんでした。きっとそれは初めて訪れた時に感じた皆さんの温かさを知っていたからだだと思います。引越した日、さらにこの町が好きになることがたくさんありました。電気や水道の開栓を



みんな揃って

すでにやっておいてくれたり、近所の挨拶まわりにおかみさんがついてきてくださったたり、夕飯の差し入れをいただいたり、また私が妊娠していることを告げると、町のみなさんが喜んでくれ、私の顔を見かけると「寒いから気をつけてね」と、いろいろな方に声をかけてもらい、その度に心が温かくなりました。三月には夫の仕事が本格スタート。四月には娘が生まれ、家族三人、これからもこの温かな町で暮らしていけることを幸せに感じている今日この頃です。